

2022年度 輝くまちづくり交付金 実施報告書

1 事業内容

団体名	チームくしろ防災女子
事業名	みんなで考える防災研修会
課題テーマ	安心して暮らせる都市
事業提案の背景	令和3年度に本交付金により実施した女性を対象とした「災害0次の持出セット」試作事業においてアンケートを行ったところ、多くの女性が防災についての知識不足に対する懸念や避難所生活についての不安が、ことのほか大きい事がわかった。 そのため、女性や子供、また、親子での参加がしやすい防災研修を行い、切迫する自然災害に対する防災・減災についての正しい知識を提供する事が急務と考えた。
事業目的	就労している若い世代は子供を預けてセミナーへ参加するのが難しい事もあり講演会や講習会への参加の機会が乏しいため、働く女性や親子など、比較的若い世代が参加しやすい研修会の実施を考えた。本事業では専門家による講話のほか、親子で楽しめるワークショップを行う中で、防災について考える機会を提供することにより市民の防災意識の向上を目指すことを目的とする。
事業概要	講演会を1回、講演とワークショップを組み合わせた研修会を2回実施。講演会は東日本大震災を経験した語り部を招聘し実施し、研修会は防災に関する専門家として釧路教育大学の酒井多加志教授を講師に迎え防災まち歩きについての講義を実施。ワークショップは防災工作及び防災まちあるき等を実施した。また、釧路市防災危機管理課の協力により、まちなかの避難施設の見学を加えて避難所を見て回る「避難所探検隊」と称した事業を実施したほか、持出品や備蓄品についての紹介を行うコーナーを設け「災害0次の持出品」の紹介及び「持出品」についての説明、防災クッキングについてのパネル展示をイベント会場にて展開した。
事業展開	子供連れで講演会などに参加しにくい世代に、親子で参加できる防災研修会を実施し、親子で防災について考える時間を提供した。多くの親子連れに参加の機会を広げるため釧路総合振興局の事業においても「防災探検隊」事業を実施した。また、専門家として講師の大学教授に加え、道東技術士委員会、一般社団法人北海道建築士会釧路支部の協力を得ることができた。 講演会は新型コロナウイルスの感染防止を徹底した中で開催。釧路北陽高等学校のボランティアの協力で事業を行い、釧路聴力障害者協会の協力により手話通訳を実施し、聴力障害者協会会員へ参加を促した。

成果目標の達成状況	計画当初は単独の講演会及び研修会を3回程度実施する予定であり研修内容についても複数検討していたが、東北からの講師招聘により予算が超過した事もあり「防災探検隊」事業にまとを絞った実施内容となった。 親子での参加を目指していた部分では参加人数に課題を残したが参加者の満足度は高く手ごたえを感じている 講演会は100名を超える参加者があり、高校生ボランティアや手話通訳を入れるなど新しい試みも行った
波及効果の達成状況	女性目線の防災活動への注目度が高く、団体の活動及び実施事業について北海道新聞、釧路新聞、NHK、HBCで大きく報道されたことにより、防災についての情報発信が思わぬ形で進んだ。また、FMくしろからラジオ番組への出演依頼も、あり令和5年4月からはFMくしろで月に1度定期的に番組出演することになるなど本事業の実施効果の波及効果が大きかった。
実施体制	チームくしろ防災女子 協力：釧路市防災危機管理課 釧路総合振興局建設管理部建設指導課 一般社団法人北海道建築士会釧路支部 道東技術士委員会 一般社団法人おらが大槌夢広場 一般社団法人釧路聴力障害者協会 北海道釧路北陽高等学校ボランティア部・生徒会 講師：教育大学釧路校 酒井多加志教授 助言：日本赤十字北海道看護大学 根本昌宏教授 北見工業大学 高橋清教授
連携した市担当課	無 ・ 有 (総務部防災危機管理課)
連携した市担当課が果たした役割 (※有の場合)	避難施設・避難計画についての情報提供 事業についての助言及び運営補助 避難施設見学に関する調整 周知についての協力

2 支出決算書と支出内訳

(収入)

費目	決算額 (円)	内訳
輝くまちづくり交付金	300,000	
会費・寄付	50,000	
自己資金	121	
合 計	350,121	

(支出)

費目	決算額（円）	内訳
対象経費		
謝礼	23,980	お礼菓子折・日本酒
印刷製本費	37,081	チラシ、垂幕、ポスター等印刷代
使用料・賃借料	50,010	講演会・研修会会場費等
役務費	9,050	振込手数料、損害保険料、切手代
委託料	230,000	講演料（講師2名旅費含）手話通訳者
小 計	350,121	
対象外経費		
小 計	0	
合 計	350,121	